

令和6年度

枚方京田辺環境施設組合
決算審査意見書

枚方京田辺環境施設組合監査委員

目次

第 1.	審査の対象	2
第 2.	審査の期間	2
第 3.	審査の方法	2
第 4.	審査の結果	2
第 5.	決算の概要	3
1.	決算の状況	3
2.	歳入	4
3.	歳出	6
4.	財産の状況	8
第 6.	意見	9

(凡例)

- 文中及び各表中の金額は、原則として千円単位で表示し、単位未満を四捨五入（歳入は切り捨て）して表示したため、総数と内訳等が一致しない場合がある。
- 文中及び各表中の比率は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、第 1 位まで表示することを原則としている。
- 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
「－」 …… 比較不能、不用のもの又は該当数値のないものを示す
「△」 …… 負数を示し、増減を示すときは減を示す

枚 京 監 第 1 6 号
令和7年（2025年）9月25日

枚方京田辺環境施設組合
管理者 上村 崇 様

枚方京田辺環境施設組合
監査委員 分林 義一
監査委員 峠 賢一

令和6年度枚方京田辺環境施設組合一般会計歳入歳出決算審査意見書の提出について

地方自治法第233条第2項の規定により審査に付された、令和6年度枚方京田辺環境施設組合一般会計歳入歳出決算書その他政令で定める書類を審査したので、その結果について、次のとおり意見を提出する。

第 1. 審査の対象

令和 6 年度枚方京田辺環境施設組合一般会計歳入歳出決算

令和 6 年度枚方京田辺環境施設組合一般会計歳入歳出決算事項別明細書

令和 6 年度枚方京田辺環境施設組合一般会計実質収支に関する調書

令和 6 年度枚方京田辺環境施設組合財産に関する調書

第 2. 審査の期間

令和 7 年 8 月 27 日から令和 7 年 9 月 25 日まで

第 3. 審査の方法

審査に付された歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、関係法令に準拠して作成されているか、計数の正確性、事務処理の適否、予算執行状況等について検討するため、関係諸帳簿を照合し、また、関係職員から説明を受け審査を行った。

第 4. 審査の結果

審査に付された歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、決算の計数は、関係諸帳簿と符合して正確であると認められた。また予算執行及び事務処理についても、例月現金出納検査・定期監査を通じて検査・監査した結果、おおむね良好に処理されていた。

第5. 決算の概要

1. 決算の状況

令和6年度の決算額は、予算現額74億4,441万2千円に対して

歳入 74億4,440万9千円

歳出 74億2,640万5千円

となっており、前年度に比べ、歳入で62億7,974万7千円(539.2%)増加、歳出で62億6,187万円(537.7%)増加している。

歳入歳出差引き(形式収支)、実質収支ともに1,800万4千円の黒字となっており、前年度の実質収支額を差し引いた単年度収支は1,787万8千円の黒字となっている。

歳入歳出決算状況は、次表のとおりである。

歳入歳出決算状況

(単位：千円、%)

区分	令和6年度	令和5年度	増減額	増減率
予算現額	7,444,412	1,169,516	6,274,896	536.5
歳入決算額 (A)	7,444,409	1,164,661	6,279,747	539.2
歳出決算額 (B)	7,426,405	1,164,535	6,261,870	537.7
歳入歳出差引額(形式収支額) (A) - (B) (C)	18,004	126	17,878	14,113.1
翌年度へ繰り越すべき財源 (D)	0	0	0	0
実質収支額 (C) - (D) (E)	18,004	126	17,878	14,113.1
前年度実質収支額 (F)	126	149	△23	△15.4
単年度収支額 (E) - (F)	17,878	△23	17,901	—

2. 歳入

(1) 歳入の概要

決算額は74億4,440万9千円で、予算現額74億4,441万2千円に対して3千円の減となり、執行率は99.9%である。また、調定額74億4,440万9千円に対する収入率は100.0%である。

決算額を前年度と比較すると62億7,974万8千円（539.2%）増加している。

決算額の内訳は、次表のとおりである。

(単位：千円、%)

款	令和6年度				令和5年度		対前年度比較 (収入済額)	
	調定額	収入済額	収入率	構成比	収入済額	構成比	増減額	増減率
分担金及び負担金	600,188	600,188	100.0	8.0	307,023	26.4	293,165	95.5
国庫支出金	2,312,995	2,312,995	100.0	31.1	141,889	12.2	2,171,106	1,530.1
諸収入	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
繰越金	126	126	100.0	0.0	149	0.0	△23	△15.3
組合債	4,531,100	4,531,100	100.0	60.9	715,600	61.4	3,815,500	533.2
合計	7,444,409	7,444,409	100.0	100.0	1,164,661	100.0	6,279,748	539.2

※収入率・・・収入済額/調定額（以下同じ）

※構成比・・・収入済額合計に占める比率

(2) 歳入の収入状況

歳入の状況を款別にみると、次のとおりである。

1 款 分担金及び負担金

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
600,188	600,188	600,188	0	0	100.0

収入済額は6億18万8千円で、前年度に比べ2億9,316万5千円(95.5%)増加している。内容としては、構成市からの負担金収入である。

2 款 国庫支出金

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
2,312,995	2,312,995	2,312,995	0	0	100.0

収入済額は23億1,299万5千円で、前年度に比べ21億7,110万6千円(1,530.1%)増加している。

3 款 諸収入

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
2	0	0	0	0	0.0

4 款 繰越金

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
127	126	126	0	0	100.0

収入済額は12万6千円で、前年度に比べ2万3千円(15.3%)減少している。

5 款 組合債

(単位：千円、%)

予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
4,531,100	4,531,100	4,531,100	0	0	100.0

収入済額は45億3,110万円で、前年度に比べ38億1,550万円(533.2%)増加している。

3. 歳出

(1) 歳出の概要

決算額は74億2,640万5千円で、予算現額74億4,441万2千円に対して1,800万7千円の減となり、執行率は99.8%である。

決算額を前年度と比較すると62億6,187万円（537.7%）増加している。

決算額の内訳は、次表のとおりである。

（単位：千円、%）

款	令和6年度		令和5年度		対前年度比較 (支出済額)	
	支出済額	構成比	支出済額	構成比	増減額	増減率
議会費	224	0.0	261	0.0	△37	△14.3
総務費	104,812	1.4	103,276	8.9	1,536	1.5
衛生費	7,188,800	96.8	1,046,375	89.8	6,142,425	587.0
公債費	132,568	1.8	14,624	1.3	117,944	806.5
予備費	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	7,426,405	100.0	1,164,535	100.0	6,261,870	537.7

(2) 歳出の性質別経費の状況

性質別に経費を分類すると、次表のとおりである。

（単位：千円、%）

区分		令和6年度		令和5年度		対前年度比較 (支出済額)	
		支出済額	構成比	支出済額	構成比	増減額	増減率
義務的 経費	人件費	228	0.0	234	0.0	△6	△2.6
その他 経費	物件費	72,460	1.0	25,257	2.2	47,203	186.9
	補助費 等	231,215	3.1	112,098	9.6	119,117	106.3
投資的経費		7,122,502	95.9	1,026,946	88.2	6,095,556	593.6
合計		7,426,405	100.0	1,164,535	100.0	6,261,870	537.7

※性質別分類区分

人件費・・・（節）報酬、災害補償費

物件費・・・（節）旅費、交際費、需用費、
役務費（自動車損害保険料を除く。）、

委託料、使用料及び賃借料、備品購入費
 補助費等・・・(節) 報償費(報償金)、役務費(自動車損害保険料)、
 負担金、補助及び交付金、償還金利子及び割引料
 投資的経費・・・(節) 工事請負費

(3) 歳出の執行状況

歳出の状況を款別にみると、次のとおりである。

1 款 議会費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
285	224	0	61	78.6

支出済額は22万4千円で、前年度に比べ3万7千円(14.3%)減少している。

不用額は6万1千円で、執行率は78.6%となっている。

2 款 総務費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
120,556	104,812	0	15,744	86.9

支出済額は1億481万2千円で、前年度に比べ153万6千円(1.5%)増加している。この主な要因としては、派遣職員の給与費等負担金などが増加したことによるものである。

不用額は1,574万4千円で、執行率は86.9%となっている。

3 款 衛生費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
7,190,000	7,188,800	0	1,200	99.9

支出済額は71億8,880万円で、前年度に比べ61億4,242万5千円(587.0%)増加している。この主な要因としては、可燃ごみ広域処理施設整備・運営事業の建設工事に係る工事費が増加したことによるものである。

不用額は120万円で、執行率は99.9%となっている。

4 款 公債費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
132,571	132,568	0	3	99.9

支出済額は 1 億 3,256 万 8 千円で、前年度に比べ 1 億 1,794 万 4 千円 (806.5%) 増加している。この主な要因としては、長期借入債の償還金及び利子が増加したことによるものである。不用額は 3 千円で、執行率は 99.9% となっている。

5 款 予備費

(単位：千円、%)

予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
1,000	0	0	1,000	0

4. 財産の状況

区分	前年度末 現在高	決算年度中 増減高	決算年度末 現在高
財務会計システムハードウェア	1 式	—	1 式

(1) 公有財産 (土地・建物)

該当なし

(2) 物品 (取得価格又は評価額が 50 万円以上の備品)

(3) 債券

該当なし

(4) 基金

該当なし

第6. 意見

令和6年度の決算額は、歳入は74億4,440万9千円で、前年度に比べ62億7,974万7千円(539.2%)増加し、歳出は74億2,640万5千円で、前年度に比べ62億6,187万円(537.7%)増加している。

歳入歳出差引き(形式収支)、実質収支ともに1,800万4千円の黒字となっており、前年度の実質収支額を差し引いた単年度収支は1,787万8千円の黒字となっている。

令和6年度の歳入歳出額が前年度に比べ大幅に増加した要因としては、可燃ごみ広域処理施設整備事業の本格的な工事の進捗に伴う整備費用の確保及び支出によるものである。

また、単年度収支が前年度の赤字から大幅な黒字となった要因としては、昨年度行われた国の人事院勧告に伴う当組合職員給与等の改定を見込んで確保した予算額と執行額との間に乖離が生じたためである。

可燃ごみ広域処理施設整備・運営事業においては、令和5年度より工事が始まり、この間大きな事故等も発生することなく順調に整備が進められ、目標年次である令和7年度中の本格稼働に向けた整備が着実に進められているが、更に効率的・効果的かつ適正な事務事業を進めていくため、次の点に留意して取り組まれるよう要望する。

1. 事務事業の執行については、引き続き国庫補助金等、適切な財源の確保に努めるとともに、より一層効率的・効果的な財政運営に努めること。
2. 現在進めている可燃ごみ広域処理施設整備建設工事においては、引き続き施工者、監理業者に対し、安全かつ遅滞のない進捗を求めるとともに、要求水準に基づく施工品質の確保、適法かつ適正な施工体制の履行の確認など、的確な監督に努めること。
3. 事務事業の進捗に合わせ、両市の市民等に適切な情報の提供に努めるとともに、施設整備において環境影響評価書に示された環境保全措置を確実に実施すること。
4. 予算編成にあたっては、昨今の資材価格や労務費等の高騰に伴う整備建設工事や運営事業への影響が懸念されるため、事業の精査を十分に行い、適切な予算措置に努めること。